

たんないさんじんじゃけいだい

丹内山神社境内遺跡は JR 釜石線・晴山駅から南東約 3.2 km、花

まき しとうわちょうたにない しょうざい

巻市東和町谷内に所在します。遺跡の標高は約 227m で、丘陵の西

ひょうこう

きゅうりょう せい

たん かんしゃめんち りっち
端の緩斜面地に立地しています。

えんぎ

えず

もと

はいぶつ きしゃくいぜん

本遺跡では、丹内山神社の縁起や絵図などを基に、廃仏毀釈以前

におうもん

めいじき

いこう

かどじんじゃ

めいしょうへんこう

にあったとされる仁王門（明治期以降に門神社と名称変更）の位置

じつたい

や遺跡の実態を探るため、平成 5～6 年に発掘調査が行われました。

どひょうあと

ちゅうけつ

き

この調査では、仁王門跡、土俵跡、柱穴 3 基、小ピット 46 基、

れっせき じょう いぶつほうがんそう

列石 1 条、遺物包含層が見つかりました。遺物は縄文時代後期から

じょうもんじだいこうき

ばんき

晩期（約 4,000～2,300 年前）の土器片、土偶 2 点、土製錘飾品 1

どぐう

どせいすいしよくひん

いしさじ

やよいじだいしよとう

点、石匙 1 点、弥生時代初頭（約 2,300～2,000 年前）の土器片、

どうせん

わくぎ

てつせいひん

他には、銅銭や和釘など鉄製品が見つかりました。

かんのんどう

平成 6 年の調査では、現在の観音堂登り口周辺を中心に、東西

はんい

たんかざい

しよど

4.5m×南北 4.5m の範囲に炭化材と焼土が確認されました。これは明

治期の絵図に描かれている仁王門の位置や大正 2 年に起きた門神

いっち

社の火災記録と一致して

こんせき

います。火災の痕跡は地

層からみても明治期以降

すいてい

のものと推定され、観音

さんどう また

堂への参道を跨ぐように

仁王門が建っていたと考

えられます。



調査風景 (1994年調査)